

# 横浜銀、「商流」担保に融資

## スタートアップ借りやすく

横浜銀行は地銀で初めて、取引先の「商流」を担保にした融資に参入する。金融とITを融合するフィンテックベンチャー、トランザックス（東京・港）と業務提携し、取引先の受注記録を裏付けとした電子債権を組成し、担保にできる仕組みを導入する。創業まもなくスタートアップ企業が決算の実績にかかわらず、運転資金を借りやすくする。横浜銀行が導入するのは「POファイナンス」。POはパーチェス・オーダー（注文書）銀行融資は決算書を審査し、可否を判断するところが多い。決算書はすでに終わった「過去の数字」。成長著しいスタートアップは納期までに数カ月かかると運転資金が不足してしまう。決算書の実績がない企業であれば、相当な担保がなければ融資を受けられない。